



一般社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2018 1-2 月号

【新年挨拶】

水嶋敏夫理事長のあいさつ

鵜飼裕之学長のあいさつ

【研究者紹介】

筋収縮による健康効果の発現メカニズムを解明し、
運動模倣薬・食品の開発を

作業支援ロボットに搭載可能な賢い音声対話機能の開発を

【学生コーナー】

Bridgestone World Solar Challenge 2017 参戦!

新しい支援の形

名工コレクション ―正門前の茶室―

【ホットライン】

名古屋工業大学女性同窓会「鶴桜会」

第2回交流会開催報告

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ
キックオフシンポジウムを開催

【新聞記事コーナー】

中日新聞、中部経済新聞

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース

No.481

発行 一般社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>



名古屋工業大学吹奏楽団 第6回定期演奏会



2018 | 3 | 23 **金**

開場/17:30 開演/18:00

入 場 無 料

天白文化小劇場



■名古屋市天白区原一丁目301番地 ターミナルビル4階

■TEL 052-806-8060 FAX 052-806-8060

※公共交通機関をご利用ください。

【交通アクセス】

・地下鉄鶴舞線「原」下車 2番出口すぐ

・市バス「地下鉄原」下車すぐ

■駐車場数 25台 料金 (1日1回) 普通自動車300円

木内 涼

マーチ・シャイニング・ロード
(2017年度全日本吹奏楽コンクール課題曲)

樽屋 雅徳

マードックからの最後の手紙

P.スパーク

A Weekend in New York

タケカワ・ユキヒデ／arr.樽屋雅徳
銀河鉄道999

R.ブラックモア ほか／arr.佐橋 俊彦

ディーブ・パープル・メドレー 他

※曲目は都合により変更になる場合がございます

最新情報はこちら：HP / <http://nwo.club.nitech.ac.jp/wordpress/>

Twitter / @nitwindorch

お問い合わせ / nitwindorchestra@gmail.com

主催/名古屋工業大学吹奏楽団 後援/名古屋工業会

表紙写真説明

「徳川園の牡丹」

撮影者 工業会事務局



新年のご挨拶

理事長 水嶋 敏夫 (M42)



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、ご家族と穏やかに新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。名古屋工業会は全学同窓会組織として「大学支援」と「会員相互親睦」を活動の2本柱として諸施策を推進しておりますが、会員の皆様には日頃から多大なご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、7月には九州北部豪雨で甚大な被害があり、10月になっても超大型の台風が上陸するなど、昨年に引き続き自然災害に苛まれた年でした。

あらためて不断の防災対策の必要性を感じると共に、被害に見舞われた地域にお住まいの皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。

政治・経済の面では、安定政権の下で日本経済は緩やかに回復しているという評価が定着している一方、実感は薄いと感じておられる方も多いのではないのでしょうか。

外交面では、北朝鮮と我が国を含む周辺諸国で緊張感が高まるなど、不安要素が払拭できない一年でした。

また、天皇陛下が退位される日が来年4月末に固まり、再来年には東京オリンピックが開催される運びとなっており、時代が大きく移り変わっていくのを感じる今日この頃です。

一方母校では、鶴飼学長の下わが国で初めて設置した6年一貫の創造工学教育課程をはじめ、工学教育の新たな時代を切り開く先駆的な試みがなされており、「大学支援」を事業目的の第一としている工業会としても、名古屋工業大学研究協力会とも連携して、一層の支援充実をして参りたいと考えています。

また昨年10月末には、第3回目の『ホームカミングデー』を大学と共同で開催しました。

当日は学内見学会、講演会、懇親会、初の女子会である「鶴桜会」も行なわれ、その中身も

少しずつ充実してきていると自負しておりますが、更に多くの皆さんに参加いただき、楽しんで頂きたいと思しますので、皆さんのご提案もよろしくお願いします。

工業会活動の重要な柱である「会員相互親睦」として、昨年も全国各支部で開催された支部総会には、私も鶴飼学長とご一緒に、可能な限り参加して参りました。

昨年の春からは、大学入学と同時に名古屋工業会の会員となった学生が卒業したこともあり、若い人達が少人数ながらも支部総会などの行事に参加されるのは、大変心強い事だと感じています。

中には女性会員の参加もあり、今までとは雰囲気が変わったとか、明るくなったといった声も聞かれるようになって参りました。

これからも各支部の若い人の会員数は毎年確実に増えていきますので、これからの工業会は、若い世代から大ベテランまで、男性女性を問わず、活発に交流ができるよう、各支部におかれども、色々な人が楽しんで参画できる行事の企画をお願いしたいと思います。

さて、工業会が持続可能な成長を続けていくには、全学同窓会としての基盤整備と会員サービスの更なる充実を図っていく必要があります。

その為に、役員の皆さんと議論を重ねておりますが、会員の皆様におかれましても、今後とも工業会活動の活性化に向けた忌憚のないご意見、ご提案をお願い致します。

最後になりましたが、本年が母校と工業会の次の100年につながるよう基盤をしっかりと固め、実り多き年になりますように、また会員の皆様にとってご健康で幸多い年になる事を祈念致しまして、私の新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

名古屋工業会 会長
国立大学法人名古屋工業大学 学長
鵜飼 裕之



新年あけましておめでとうございます。

名古屋工業会会員の皆様方には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年世界では、ブレグジット（Brexit）、トランプ旋風に始まり、北朝鮮問題など先が読めない不安要因が続いた年でした。わが国でも景況感に改善がみられたものの、実感としてはモヤモヤとするものに覆われていた一年でした。そのような中で、昨年末に政府が打ち出した「人生100年時代構想」は世代を超えた人材育成策ですが、今後、高等教育、とくに国立大学に対しては、飴と鞭を織り交ぜた様々な政策が財政措置、制度改革として具体化されていくことが予想されます。翻って、本学においては、「伝統を礎に新たなグローバルステージへ」というスローガンの下、第三期中期目標計画期間2年目を迎えるなかで様々な教育研究改革が順調に進み、将来に向けた地固めを着実に実行することができた一年でした。教育改革の柱である6年一貫教育課程については、文部科学省に設置された「大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会」において6年一貫制度の導入が検討されるなど、本学のめざす新たな工学教育を後押しする風が吹いています。研究特区として設置した材料科学ならびに情報科学フロンティア研究院には、常時30名程度の海外著名大学等からの外国人数員が所属しています。さらに、ここから派生したオーストラリアのウーロンゴン大学と共同学位を授与する博士後期課程ジョイントディグリープログラムが本年3月に開始します。外国人留学生向けの特別プログ

ラムを積極的に推進することで、留学生数も増加に転じました。海外で勉強しようという意欲ある学生の数も少しずつではありますが増えています。このように、研究においても教育においても名工大キャンパスは国際化に向かっていきます。一方、本学の強みである産学官連携においては共同研究が大幅に増加する一方、教育においても、大学院での講義を中心に数多くの企業研究者・技術者を実務型教員として招致して実践的な専門科目を増やしています。また、工場長養成塾など社会人を対象としたリカレント教育、ロボット導入講座など中堅・中小企業を対象とした社会貢献事業にも拍車をかけています。昨年、従前の産学官連携センターと大型設備基盤センターを統一化、拡大的に改組して産学官官連携機構を整備しました。本学の有する知と設備のリソースを最大限に活用しながら金融界とも一体となって産学官連携を組織的に推進する、産学連携に実績のある本学ならではの機構です。さらに、本年は、AI・IoTなどのICTを中核とした研究センター、先進的な生産技術で地域の製造業を支える研究センターなどのイノベーション創出拠点を整備する予定です。このように、教育と研究の両輪を力強く牽引する動力源として国際連携と産学連携を一層充実することで、本学がめざす「工学のイノベーションハブ」構想が徐々に実現されつつあります。

さて、こうした本学の教育、研究、社会貢献活動にとって、名古屋工業会をはじめとする同窓生の方々との交流は大切な活動の一つと位置

付けております。昨年は、直接同窓生の方々と交流する機会を得るため、全国に広がる名古屋工業会の支部総会のうち、北は東北、南は九州まで13支部の総会に参加いたしました。また、企業毎に開催される名工大同窓会などにも積極的に参加してまいりました。改めて、母校の教育研究活動にご理解、ご支援を賜っております名古屋工業会会員をはじめ同窓会の皆様には厚くお礼を申し上げます。本年も、引き続き多くの支部、同窓会に伺う予定でおります。その折は、よろしくお願い申し上げます。

また、同窓生・地域の皆様と現任教職員・学生の交流の場として、昨年10月28日には、第3回ホームカミングデーを名古屋工業会と共催で開催し、数多くの皆様をお迎えすることができました。昨年は、特別行事として「名工大の歴史と今を巡る見学ツアー」を企画いたしました。伝統から学びながら、次世代の工学教育研究のあるべき姿をめざす名工大を知って頂く「温故知新」のツアーです。そのなかで、本学初代学長である清水勤二先生について紹介いたしました。清水勤二先生は、京都帝国大学電気工学科を大正12年に卒業後に名古屋高等工業学校に赴任されて電気工学科を設置された方です。その後、技術院（当時）課長、明治工業専門学校（現九州工業大学）校長も歴任され、名工大学長退官後には名古屋市科学館初代館長にも就任されておられます。この間、とくに終戦の混乱期には文部省科学教育局長（当時）として戦後の学術体制を整備され、学長、館長在任中にはわが国の科学技術教育の振興に多大な貢献を果たされました。その清水勤二先生が名工大初代学長として目指されたのが、実践的な工学教育と産学共同研究を重視する工学系大学としての独自の進化でした。この教育研究方針は本学に深く根を下ろし、実践的な工学人材の育成と産業技術の革新の両面において、地域ひいてはわが国の科学技術の発展に寄与してきたものと自

負しています。しかし、今日、世界規模で急加速するグローバル化とICTの進化により、わが国は科学技術と産業競争力の両面において劣勢に立たされています。そのため、大学等に対しては、わが国を牽引する高度人材の育成とイノベーション創出のエンジンとして機能することが強く要請され、機能を強化するための改革が必須となっています。本学が目指す教育研究ビジョン「実践的工学エリート」と「工学のイノベーション」は、将にこの要請に即した改革方針です。戦後、清水勤二先生が科学技術立国を支える大学としての道を目指されてから70年余り経ち、時代はまた大きく変わる潮目を迎えています。この時こそ、本学が真によりき大学としてさらに進化する「天の時」と言えます。幸い、この地域にはものづくり産業の一大拠点であるという「地の利」があります。「天の時」と「地の利」が揃った今こそ、産学官金連携と国際連携で築くネットワークによって「人の和」を広げて強靱な教育研究体制を築き、「天地人」を活かしていく絶好の機会であると言えます。本年もまた、昨年よりも一歩前進する大学を同窓生の皆様にお見せできるよう、教職員一体となって改革に取り組んでまいります。名古屋工業会会員の皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様によって良き一年となりますことを心より祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

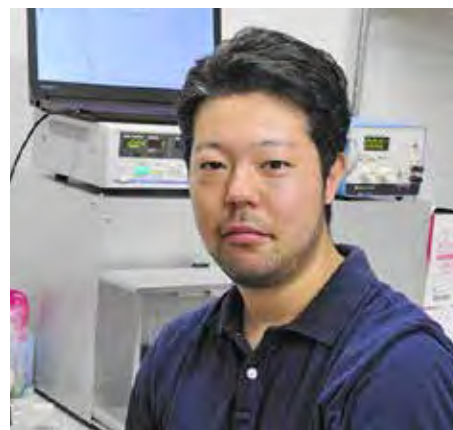


研究者紹介

筋収縮による健康効果の発現メカニズムを解明し、運動模倣薬・食品の開発を

研究者：名古屋工業大学大学院

工学研究科 生命・応用化学専攻 小笠原 理紀 准教授



運動すると、なぜ健康に良いのか。自分の意思で動かすことができる骨格筋(随意筋)が収縮するとき、どのようなことが体の中で起こっているのか。麻酔下の動物への電気刺激による筋収縮モデルを独自に作成し、筋収縮による生体適応メカニズムを解明している小笠原理紀准教授。運動による筋収縮をきっかけに骨格筋から分泌される物質が全身に作用し、健康増進や疾患予防などの効果が発現する過程を解き明かすことで、運動の効果を高める食品や、運動ができない人にも有効な運動効果を模倣する薬剤の開発を目指している。

サルコペニア予防

加齢に伴う筋量と筋機能の低下は、ラテン語で筋肉の減少を意味する「サルコペニア」と呼ばれ、筋力の低下により日常の身体動作が困難になったり、転倒の危険性が増したりと、要介護へのリスクが高まる。サルコペニアは、年齢とともに誰もが直面する問題であり、サルコペニア対策の確立は、超高齢社会を迎えた日本にとって介護予防の観点からも急務である。

筋肉を構成する筋線維には速筋と遅筋があり、収縮張力大きいのが速筋線維で、つまりいたとときにとさに反応して転倒を回避できるのもまた速筋線維の働きである。筋肉の萎縮を抑制するには速筋を鍛えるのが有効で、運動による筋肥大を引き起こすためには、ダンベルや自分の体重などによって筋肉に負荷をかけるレジスタンストレーニングが効果的だ。

レジスタンストレーニングによる筋肥大効果を最大限引き上げるためにも、食事による適切なタンパク質摂取は必須だが、高齢者は若者と同じ食事を取っていても、筋タンパク質合成の反応性が鈍いため、食事の取り方にも工夫が必要となる。例えば高齢者は、タンパク質を構成するアミノ酸の中でもロイシンの含有量が多いアミノ酸でのみタンパク質同化作用が刺激されることが報告されているため、糖質を含まずロイシン高配合のサプリメントを食事とは別のタイミングで摂取するのが効果的と考えられる。

今後、年齢差や個人差が生じる原因について更なる研究を進め、個人に合わせた食生活と運動習慣の提案をすることで、サルコペニアの予防および改善に繋がる効果が期待される。

がん増殖のメカニズムと筋肥大の意外な共通点

がん細胞の増殖をヒントに筋肉が増強するメカニズムを探てみると、運動をしたときの筋肉はがん細胞が増殖するときと同じような環境になっていることが分かってきた。筋肉が収縮するとがん遺伝子として知られるc-Mycという転写因子や、がん代謝物として知られる2ヒドロキシグルタル酸が増加する。

また、タンパク質の合成促進に関わる「mTORC1」(mechanistic target of rapamycin complex 1)というタンパク質複合体は、名前の通り、抗がん剤、免疫抑制剤として用いられている「ラパマイシン」が標的にするタンパク質キナーゼで、がん細胞内でも活性化してがん細胞の増殖に深く関与している。mTORC1シグナルの実体や、mTORが活性化する経路を研究することで、筋肥大のメカニズムとともに、がんのメカニズムの解明にも一役買うことが期待される。

お問い合わせ先 国立大学法人名古屋工業大学 産学官金連携機構

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町字木市

E-mail: c-socc@adm.nitech.ac.jp

URL: <http://tic.web.nitech.ac.jp>

作業支援ロボットに搭載可能な 賢い音声対話機能の開発を

研究者：名古屋工業大学大学院

工学研究科 情報工学専攻 田口 亮 助教

人工知能を画像、音声、パターン認識に応用し、それぞれの情報処理能力や精度の向上を図るとともに、ロボットの行動やセンサー情報などと組み合わせることで更に高度で実用に即したシステムを研究している田口亮助教。

作業支援ロボットを発話による音声で動かすことができれば、操作が簡単になる上、両手がふさがった状態でも作業を続行できるため、作業効率のアップが望める。製造や点検、保守管理、介護などの業務を補助するロボットやウェアラブル端末に音声認識機能を搭載して、自ら言葉と動作の関連性を学んで賢く対応できる協働ロボットの開発を目指す。



ロボットによる語彙学習

家庭やオフィスのような環境で稼働するロボットは、開発者が想定できない未知の人や物、場所に遭遇する機会が多いため、従来の音声対話システムのように言語知識を事前に定義するのではなく、利用者の自然な発話から学習できることが望ましい。人間の幼児が言葉を覚えるように、ロボットが利用者とのやり取りを通じて語彙を増やし、言語知識を深めていくことで、利用者や作業環境によって異なる言語表現にも適切に対応できるようになる。

この語彙学習システムは、単語ではなく、連続音声としての文の中からキーワードに該当する語句を切り出すことができるのが特徴。知っている言葉か、知らない言葉かをまず判定し、知らない言葉だった場合、もう一度別の言葉で言い換えるか、画面への入力を要求し、動作後に学習データを登録する。

このようにロボットが人間とのやり取りを繰り返すうちに、日々学習して賢くなっていくイメージ。言った人の癖も認識できるようになれば、あいまいな発話でも人間の意図をくみ取って作業し、有能な秘書のような存在になり得る。

具体的なサービスロボットへの搭載

単にコミュニケーションを取ることを目的としたロボットではなく、ある種の仕事に限った上でやり取りできるロボットを想定し、同専攻梅崎・田口研究室で開発した車両外観傷検査ロボットに音声対話機能を搭載。実運用に向けて研究を進めている。

車両外観傷検査ロボットは、レンタカーや中古車販売業を対象にした移動式のサービスロボットで、LED照明光を車体に照射し、その反射光を撮影した画像を分析して傷を検出する仕組み。タッチパネル操作に加えて、発話による命令が可能で、作業員からの音声命令を学習して、検査業務の中で言葉を覚えていく。人によって多少の違いが生じる未知の言い回しも記憶し、指定された場所まで移動したり、作業員が求める画像を表示したりと、発話命令に従って業務を遂行する。

今後は、空港で荷物を運ぶロボットや、介護補助ロボットなど、別の業種の作業支援ロボットに音声対話機能を搭載して、実際の現場での活用を目指す。

お問い合わせ先 国立大学法人名古屋工業大学 産学官金連携機構

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町字木市

E-mail: c-socc@adm.nitech.ac.jp

URL: <http://tic.web.nitech.ac.jp>

学生コーナー

Bridgestone World Solar Challenge 2017 参戦!

はじめに

平素より弊部にご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。皆様のご理解とご協力に部員一同感謝しております。

この度、名古屋工業大学ソーラーカー部(NITech Solar Racing)は2016年8月より、従来の「Horizon Z」とは全く異なるコンセプトである新マシン「Horizon17」を製作し、10月に行われましたソーラーカー世界大会 Bridgestone World Solar Challenge 2017 (以下、BWSC2017)に出場し、世界と戦ってまいりました。

2015年の前回大会後に始動した取り組みで、つらく苦しい時もありましたが、多くの方々のご協力と部員の情熱により、新マシンを製作しこの大会に出場するという夢を実現することができました。

WORLD SOLAR CHALLENGE とは

WSCとは、オーストラリア大陸中央を縦断するスチュアート・ハイウェイ北端の海辺の町ダーウィンから大陸南岸の都市アデレードまでの3021kmを6日半以内に走りきり、到着の順位を競うレースです。非常に歴史は古く1987年から開催されており、今年で30周年を迎えました。世界中からチームが集まるこの大会は世界最高峰のソーラーカーレースとして広く認知されており、日差しが強く寒暖差の激しい大陸中央部を突き進む過酷なレースでありながら、とても活気にあふれたイベントになっています。

大会発足当時の20年ほど前はゼネラル・モーターズやホンダ、トヨタ、アイシン、京セラなどの企業がトップチームとして参加していましたが、近年の参加チームは学生チームがほとんどで、アメリカのミシガン大学、スタンフォード



93,96年優勝ホンダドリーム



ド大学、マサチューセッツ工科大学、オランダのデルフト工科大学、トゥエンテ大学、イギリスのケンブリッジ大学、日本の東海大学など、欧米や日本の大学が中心となって大会を牽引してきました。

BWSC2017 概要

BWSC2017には3つのクラスがあり、マシンのコンセプトによってクラス分けされています。チャレンジャークラスはスピード重視のレース用1人乗りのソーラーカー、クルーザークラスは、複数人乗りで、快適性など実用性を考慮したソーラーカーとなっております。アドベンチャークラスは過去のレギュレーションに適合したソーラーカーが出場するクラスと



チャレンジャークラス



クルーザークラス



アドベンチャークラス

なっておりますが、表彰対象ではありません。

我々はチャレンジャークラスに出場しました。

また、今大会では主に以下の点でレギュレーションが大幅に変更されました。

- 太陽電池面積の減少 6m²から4m²
- マシン最大寸法の制限緩和4500×1800×2200から5000×2200×1600

これらの変更で、太陽電池面積が減少したにもかかわらず、最大寸法の制限が緩和されたため、より柔軟にマシンをデザインすることが可能となりました。



従来規格 (6m²) イメージ

新規格 (4m²) イメージ

BWSC2017に対する取り組み 新マシン製作

我々はソーラーカーレース優勝を目指し、以

下の手段・目的を持って活動を進めてきました。

- 学内で得た知識や技術をモノづくりに応用する
- 活動を通じて省エネ・システム[人(運営)、モノ(製作)]技術を学ぶ
- 技術の国際化に対応、友人、知人を作り、交流する

我々は、昨年(2016年) 8月からBWSC2017において、トップ10入りを目標に設定し、新レギュレーションに対応した新マシン「Horizon 17」の設計・製作を進めてまいりました。弊部の活動に際して、IMRA America, Inc. 様、名古屋工業会様をはじめ、多くの方々に多大なご支援、ご協力をいただきました。

今回、新しい技術を多く取り入れ、より高性能なソーラーカーを作ることが可能となりました。

設計には 3 次元 CADソフト SOLIDWORKS (ソリッドワークス・ジャパン株式会社様より



提供)を使用し、空力解析には3次元熱流体解析ソフト SCRYU/Tetra (株式会社ソフトウェアアクレイドル様より提供)を用いて、空力的に優れている最適形状を模索しました。3DCADで図面にしたモデルを実現させるため、型製作を行いました。通常、型はNCと呼ばれるコンピュータ制御の削り出しで行われますが、我々は費用削減のため、雄型・雌型をすべて手作業で製作しました。

インパクトレンチなど主要な工具は株式会社マキタ様に提供していただきました。次の工程のカーボン焼き上げではプリプレグ素材と窯に関して東明工業株式会社様と茨城工業株式会社様に提供及びご協力頂きました。

マシンの足回りに関しては、金属材料の提供で株式会社伊藤彰産業様、アームのアルミ溶接では有限会社アクセル様、サスペンションのバネは名古屋発條株式会社様、軽量化を狙ったチタンアップライトの強度解析、製作には東明工業株式会社様、株式会社石井機械製作所様にご協力頂きました。また、低転がり抵抗を実現した Ecopia with ologic タイヤを株式会社ブリヂストン様より、低摩擦ベアリングを株式会社ジェイテクト様より提供していただきました。

電装では、駆動時の損失低減を狙うため、モーターの巻線には平角線を採用しました。巻線の選定・巻き込みには株式会社林工業所様、モーター組み立てには株式会社ミツバ様にご協力頂きました。また、太陽電池に関してはSunPower Corporation様、SunCat Solar,LLC様、IMRA America, Inc.様にご協力頂きました。

割愛させていただいた企業様はございますが、学生が主体となり、このように非常に多くの方々と協力して作り上げたマシンとなっております。ご協力いただいたスポンサー様に今一度、感謝申し上げます。

結果報告 予選

スタート順位を決める予選では世界第2位のタイムを叩き出しました。

サーキットドライバーとして協力いただいた名工大フォーミュラプロジェクトの山口君のトライブテックとソーラーカーレース鈴鹿で鍛え上げてきたサーキット走行の経験が合わさった結果であると考えています。

加えて、Horizon17には名工大の最先端研究である次世代半導体デバイスGaNを用いた昇圧回路(マジックブースター)を搭載しました。これにより、巡航速度設定よりも速度を上げることができるため、サーキット、追い越しなどでは最高速度100km/hでの走行が可能になります。この装置の恩恵もあり、予選では好タイムを出すことが可能になります。

また、このマジックブースターは最先端技術を用いたこれまでにない装置・機構であることから、大会側から技術革新賞にノミネートされました。

結果報告 本戦

本戦は最高の位置でスタートが出来ました。DAY 1の天候は晴れ時々曇りで、発電量が想定を下回ると予想されましたが、比較的多めにバッテリーを使い設計巡航速度75から80km/hを維持する戦略をとりました。

バッテリー残量を犠牲にしつつも、初日の目標地点であった第1コントロールストップに到着。大きなトラブルは一切なく、トップチームに引けをとらない走りをする事ができました。

しかし、早めにバッテリーを使った我々の戦略を嘲笑うかのようにみるみる天候は悪化し、DAY 2の午後から DAY 4の午前まで太陽を覆い隠す一面の曇り空となりました。

マシン性能が高いトップチームは巡航速度を上げ、雲を抜ける戦略を取ることができますが、我々は巡航速度を下げるか、停車して晴れ間を見つけ充電する戦略を取るしかありません。

DAY 2から DAY 4の間、晴れ間を見つけるとは停車し充電することを繰り返す、非常に辛い時間となりました。

DAY 4の午後にやっと雲を抜け、実に2日ぶりとなる17時以降の「夕方の充電」をすることができました。アデレードまで1500kmを切り、完走の兆しは見えましたが、タイムリミットまで残りわずかとなっていました。リタイアラインは迫っており、天候の悪化やトラブルで停車した場合、リタイアの可能性は十分にあるという状況でした。

幸いにもその後、DAY5, 6, 7と天候に恵まれ、初めて想定通りの充電をすることができ、マシンのメンテナンスにもより力を入れ、メンバー全員で協力しトラブルが一切ないよう再度一致団結しアデレードを目指しました。

BWSC2017の大会成績
オーストラリア3021km完走
Challenger Class 12位/26
平均速度(公式記録) 58.0km/h

トップ10を目標にしていながら、約1時間の差で10位を逃す結果となり、我々は悔しく思っております。その一方で、出場チーム全体の6割以上が悪天候のためにリタイアすることとなった大波乱の今大会で完走できたこと、また、レース中マシンにトラブルが一切なかったことを大変誇らしく思っております。加えて、技術面で多数の新たな取組を行い、チーム全体の動きに関するノウハウなど今回の大会で得たものは非常に大きく、次の大会で更のジャンプアップに繋がる「大豊作のレース」だったと感じております。応援していただいた皆様、本当にありがとうございました。

次8月の鈴鹿大会でも皆様に素晴らしいレースをお見せできるよう、より一層日々の活動に励んでまいりますので、今後とも温かいご声援のほどよろしくお願い致します。



DAY ごとの結果

DAY	キャンプ地点(km)	走行距離(km)	平均速度(km/h)	終日順位
DAY1	589	589	73.21	8
DAY2	1058	469	63.97	10
DAY3	1398	340	46.91	9
DAY4	1786	388	45.13	11
DAY5	2327	541	67.63	12
DAY6	2815	488	61.78	12
DAY7	3021	206	68.36	12

学生コーナー

(名工大新聞部提供記事)

新しい支援の形

記：森井 伸一（都市社会工学科4年）

名工大新聞の7月号で、「特に大学進学を考えて勉強をしたいと考えている貧困家庭の高校生に、現役大学生たちによる無料の学習塾を開く。」という構想を語った東岡さん。早速、7月にはボランティア団体としてスタート。8月から生徒の募集を開始し、この10月号の取材が始めるころには、大学受験を控えた生徒も含め貧困の連鎖から勉強により抜け出そうと志す高校生の背中を押すボランティア活動が既に始まっていた。

それは、一般社団法人名古屋工業会（名工大の全学同窓会）の協力のもと、名古屋工業会館の3階の一室で塾は開かれている。寺子屋方式で部屋にいる人々は思い思いの作業に励んでいる。生徒は自分で持ち込んだ教科書や参考書の勉強。サポーターはそれぞれの授業の課題や本を読む。ときおり、生徒から質問がありサポーターはそれに親身に答える。生徒にどうしても知っておいて欲しいことがあるときは、サポーターがホワイトボードに事前に書きだし、生徒に声を掛けて考えてもらう。このときは、東岡が生徒に声を掛けた。ホワイトボードには「 $y = x^2 + ax$ ($1 \leq x \leq 3$) 最大値を求めよ!」と書いている。「Aさん、ここ何故平方完成をするかわかる?」と生徒に問いかける。生徒に考えることを促し、段階を踏んで自分から理解できるようにする。

なぜを5回繰り返せば大丈夫と教える。

なぜを5回繰り返せば大丈夫と教える。丸暗記だけではなく、なぜを明らかにするように東岡さんの授業は進む。そして、最後には複雑な物事に対するごく簡単な理解に到達するのである。そして、実際に独力で解いてみるということを教えることを忘れてはいけない。

国立大学進学支援塾『東岡塾』

東岡良河さん（22）

名古屋工業大学工学部3年。母子家庭でアルバイトをしながら勉強に励み、大学に進学した。かつての自分と同じような境遇にいる貧しい環境下の子どもたちへの教育に力を込める。

ここに来れば自然にやろうと思う。

生徒にここで勉強することはどのように感じるかと聞いたところ、

「図書館は孤独なところで、一人で勉強するのはつらい。ここに来ることで、一緒に勉強する仲間もいて孤独ではないし、家で勉強するよりも集中できて助かっている。」

「苦手な教科は一人だとやりたくないけど、ここに来れば自然にやろうと思う。」

「冬休みも年末年始も学習室を開けてくれるのでうれしい。」

と好評な声が聞けた。生徒は塾に多額のお金を掛ける余裕はないが、難しい大学を目指す意思の強い学生だ。それぞれが将来を夢見て志望大学の合格を目指し日々励んでいる。

支援の形は講師という形だけではない。差し



入れという形で保護者や周りの大人からお菓子やお茶の差し入れがある。

何十年も続くものにしたい

「自己満足かもしれませんが、昔の自分を受からせてやりたいんです。」と東岡は5月のインタビューで語った。一步ずつ着実に歩み、仲間を増やし実現させていった。今では、名大、名市大、名工大の学生がサポーターとして顔を出す。元河合塾のチューターや名大医学部の人もいる。東岡さんの頭にはこの団体を他の長く継続しなかった団体とは違い、何十年も続くものにしたいと思います。」そのため、大学の授業で学んだ知識を取組み継続性のある団体を目指そうと日々改善に励んでいる。

サポーターへの配慮

その中の一つは、行動心理学の授業で学んだ内発的動機、外発的動機の内容だ。内発的動機とは好きというような内面の感情による自発的な動機付け、外発的動機とは利益を得ることができるからというような外部から与えることができる動機付けを表す。東岡さんは、両者ともに大切だと考えており、自習室という形でサポーターも自分の作業をできる環境を整えていくことで、サポーターにもボランティア精神だけでやってもらうのではなく、利益を得てもらうようにしている。

人を第一に考えること

東岡さんが特に大切にしていることは経営工学を学んだ時に出会ったトヨタ生産方式の「ヒトを経営資源とみなさない。」と「人間性の尊重」いう言葉だ。人を第一に考えるのが大事なんだとスッと東岡さんの心の1ピースとしてスッと入ってきた。この団体に関係する人がそれぞれ自発的に継続して行動できる仕組みを考え続ける。

World3という的中率が高い経済の予測ソフトがある。それによれば日本は2020年まで好景

気だが、2020年以降低迷していくことが計算報告されている。中国の台頭、少子化問題など様々な問題を抱える日本。今後若年層を含む生活困窮世帯は必ず増えていくと東岡さんは確信している。その時までには支援の受け皿を確保したい。

「今後の展望」

東岡塾は、社会的企業と非営利民間団体の間(はざま)にあります。社会的企業とは、利益の最大化を第一の目的とする代わりに、社会課題の解決、緩和を目的とする団体のことです。

社会課題として、例えば自然破壊など環境に関する課題、介護など医療に関する課題などいくつかに分類されています。そして我々は、教育に関する課題を取り扱う団体です。より具体的には、「日本の大学受験における経済的格差」(2017年4月以降)を解決する課題と定めて活動しています。

社会的企業が失敗するのは、第一には課題が消滅すること、第二には、課題に対する解決策が有効でなくなることが挙げられます。しかし、当団体は2020年以降の長期的な不景気による貧困層の増加から裏付けられるため、第一の課題は消滅しにくいと思われます。

当団体は今後、第二の場合が当てはまる可能性があります。具体的には、ボランティア講師ゆえの低クオリティのサポート。人的資源不足による団体消滅、固定費等コストの上昇による継続不可能などです。

この解決策に関しては、低クオリティのサポート面では問題ありません。そもそも東岡塾は勉強面でのサポーターは名工大以上の大学に通う学生達です。さらに、基本的に高校段階での勉強のベースは学校の授業です。参考書の質問であれば著作者の意図がわかるように対応さえしてあげれば、あとは学校の教員に質問するだけで大丈夫です。その他、わからなければ格安のスタディサプリなども利用すればいいのです。さらに、それ以外でも優秀な名工大生ですと(特に理数)高校生に勉強を教える面で不自由

な面はありません。二つ目の解決策は人件費をかけずに人材を確保するというとても難しい解決策を見つけなければなりません。「国公立大学に進学するための塾」という題目はその解決策にもなるブルーオーシャン開拓(<http://onoff.ishin159.info/archives/4775>)になりました。事実、謝金も必要ないというサポーターは10名前後存在し、現在は現役の予備校教師にきてもらえないかと東岡自身が打診中で、いい返事を貰えそうな段階です。

謝金を払って人が来るなら助成金を申請すればいいじゃない。という意見を良くいただきます。現在、30万少々の助成金で活動しておりますが、この数ヶ月で東岡自身が得た教訓は「紐付きのお金は大変面倒になりうる」ということです。助成財団が申請時に書面通りの厳格な成果物を要求する一方、当団体が行う実際のプロジェクトは人員が変更やプロジェクト内容の変更があったため、齟齬が生まれているのは事実です。さらに、東岡塾内では継続的にバックオフィス業務に従事する人員がおらず、エビデンス作成にも多大な労力を要しています。学生でなければ一日中エビデンス作成に時間を割けますが、授業や資格勉強を片手間に行う業務は資料品質の低下、並びに多大なる疲労がつきまといきます。

社会課題を解決できると見込まれる人材ならば、労働時間の1割ほどを資金稼ぎに費やすだけでも十分な報酬を得られると思います。数千万程度の資金であれば、個人でやりくりする見込みも十分に立てられるため、余計なステークホルダーを介在させないという選択肢も妥当です。

一つ考えているのは、引きこもりや長期休学中の大学生のカウンセリング目的として勉強意欲ある同性の高校生に勉強を教えにきてもらい、学校に復学してもらおうというものです。この方法であれば、コストをかけず人材確保につながり、余ったコストを固定費に使用することができます。カウンセリングとしての場とし

て提供も考えています。

今後、NPO法人などの法人格の取得化に際しても慎重に行う予定です。法人格を取得した際に付きまとうのは社会課題への問題解決、すなわち、代表者として自分自身が正しいと考える解よりも、社会的な正しさを優先しなければならないということです。私自身は法人格の必要性や目指すべきビジネスモデルについて現状、判断しきれていません。

どこかで営業収益を出さなければならないのか、それとも会費などを募り寄付で事業を行うのかです。

不透明な試行において道しるべになるのは、結局のところ意思決定の一貫性であり、私自身のリーダーとして常に自分が確信できる判断を貫くべきであると考えます。社会的な正しさを窺って日和見をすることとは反対の考え方です。その観点から言って、とりあえず真つ当な組織を取り繕うためにNPO法人格の取得に手を出すことや、永続性を理由に助成金、補助金に手を出すことは避けていきたい思います。仮に法人格にするのであれば、ネット上の知識だけでなく民法を手にとって法人についての整理された考え方を学んだ上で今後判断していきます。

今後の展望は補助金、助成金を申請しすぎて団体を自由な試行錯誤ができない環境にすることなく営業収益をどこであげていくのかを悩みに悩み、考え抜いていくことにあります。そこに、本当に継続していくことができる要素があるのではないのでしょうか。



東岡塾

<https://sakurayama-daitou-city-schooljimdo.com/>

確かな流れがそこにはあった。様々な人がそれぞれの思いで支援に関わっていた。これからも見守っていきたい。

学生コーナー

(名工大新聞部提供記事)

名工コレクション — 正門前の茶室 —

場所：名工大正門入って右側

大きさ：約3m×2m 形式：三畳中板敷

記：米谷 亮祐（都市社会工学科4年）

名工コレクションは名工大周辺の気になる場所や面白いものなどを紹介するコーナーです。

第2回は名工大の正門右にある「茶室」を訪れました。

正門から右手の、駐車場付近。雑草が青々と茂る中に、ぽつりと存在する「茶室」。あまりにも野ざらしで、一見すると物置か何かにしか見えない。

しかしその中には、きちんと畳が敷かれており、棚や板間も確認することが出来た。

これはどういう所以があるのだろうと、取材を行った。

名工大の施設を管理しているのは、正門右、図書館の隣にある本部棟。構内の備品の管理をしている財務課で、この不思議な茶室について伺った。

・名工大 財務課

「(あの茶室は)建築・デザインの河田教授の管轄ですね」

なぜその茶室が、あんなところにあるのですか？

「もともとあそこにあったわけではなく、造った茶室をあそこにおいているそうです。詳しいことは分からないので、教授に直接聞いてみては」

河田教授の研究室は、正門左手、24号館の4階の端に位置していた。

研究室の中には、木造建築や歴史のある建築についての本が本棚の内外に陳列されていた。

本に囲まれた研究室の中で、河田教授は取材を快く受けてくれた。

・「あいち・知と技の探求教育特区」

2005年、愛知県で「あいち・知と技の探求教育特区」という、愛知県のものづくりに携わる、将来の人材のための教育事業が行われた。

その一環として、河田教授に高校生相手に授業をしてくださいとオファーがあったとのこと。高校生でも建築の内容に興味を持てるような授業をするために、教授は、20人ほどの高校生とともに茶室作りに挑戦した。

・予算は30万円弱

茶室作りには、1つ大きな障害があった。授業に対して降った予算が30万円弱と、茶室を作成するには心もとない物だったのだ。

限られた予算の中で、本格的な茶室を作るため



に、材料には工夫があった。

「茶室の内壁は土壁に見せるために、段ボールを張り付けています」と教授は言う。

外壁には、薄ベニヤに墨を塗って色付けをし、腐食し難いようにする。屋根はすべて杉皮ではとても高価になるので、普通のルーフィング屋根の上に杉皮を張り付けるなど、限られた予算で建築に興味を持ってもらえるよう趣向を凝らしていた。

・「草庵茶室」

段ボールの土壁にルーフィング屋根、正式な材料でなく作られたこの茶室は、その実茶室の理念に基づいているのだという。

「粗末な材料を使う。自然にあるようなあまりお金のかからない材料を使い、その分手間をかける」というのが「草庵茶室」の理念である。

土壁や外壁のような細かな様式は違えど、千利休が考案した茶室の根っこの部分を、正式な材料を使っていないこの茶室は体現しているのかもしれない。

・茶室とは

「茶室というのは、非日常の空間だから、まあそういう意味ではこう遊びの空間なんだよね。非日常の空間だから、遊びがあっていい」

と教授は語る。

「意外に(高校生)みんな興味を持って作業をしてたね、茶室や木造建築に触れることが少ないからみんな頑張っていた」

業者さんに木材の切り出しを手伝ってもらいつつ、のこぎりなど使って寸法を合わせるなど一生懸命取り組んでいた高校生にとって、貴重な経験となったことは間違いなさだろう。

ホットライン

名古屋工業大学女性同窓会「鶴桜会」 第2回交流会開催報告

名古屋工業大学では、女性同窓会「鶴桜会」の第2回交流会を、平成29年10月28日(土)に開催しました。本交流会には、OGや現役女子学生、関係者ら、計約50名が参加しました。

鶴桜会副会長の伊藤名工大特任准教授の進行のもと、はじめに鶴桜会会長の武藤名工大准教授より、女性同窓会は、「年に1回会いましょう」を合言葉に、OGや現役女子学生が交流でき、縦と横のつながりを持てる場として昨年創設しました。2年目となり、会のロゴマークも制定され、昨年より参加者も増えたとの説明がありました。続いて、鶴飼学長や鶴桜会を支援する名古屋工業会の内藤常務理事より挨拶があり、歓談が進みました。

華やかな雰囲気の中で、起業家OGのミニ講演やOG全員の1分間スピーチが披露されるなど、参加者同士の親睦が深まり、最後にダイバーシティ推進センター長の藤岡教授からの挨拶により、2時間にわたった会が盛況のうちに終了しました。終了後のアンケートでは、OGから「通学しているときには、知らなかった繋がりのある先輩にお会いでき、とてもよかったです」「また、参加したいです」「ミニ講演会とてもよかったです」等、好意的な感想が多く寄せられました。

鶴桜会は、これまで数が少なく連携が難しかった女性卒業生のネットワークを強化し、彼女たちの社会での活躍を確かなものにする契機となることが期待されています。



参加したOG,在学生



OG、学生、関係者ら集合写真

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ キックオフシンポジウムを開催

名古屋工業大学は11月22日(水)、文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)の採択を受け、キックオフシンポジウムを開催しました。教職員や学生を始め、学内外から約150名が参加。名工大ダイバーシティ推進センター長藤岡伸子教授の司会進行のもと、鶴飼裕之学長の挨拶により開会しました。

はじめに来賓挨拶として、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室長 伊藤賢氏より女性研究者の活躍促進に向けての支援方策の説明と名工大の取組への期待が述べられました。次いで、日本特殊陶業株式会社代表取締役会長兼社長の尾堂真一氏が、「ものづくり企業におけるダイバーシティの推進」という演題で講演されました。ダイバーシティ推進は、経営戦略である！従業員全員が主役である！と語られ、女性活躍の取組として女性活躍推進プロジェクトを発足し、その活動方針や5ヶ年計画についての特別講演を頂きました。

続いて「女性が拓く工学の未来賞」表彰式が行われました。この賞は若手女性研究者を表彰することにより、その研究意欲を高め、もって将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図り、これによりダイバーシティの推進に資することを目的としているものです。受賞者を表彰するとともに、副賞を授与しました。次いで、ダイバーシティ推進センターの新たな取組として、藤岡伸子ダイバーシティ推進センター長より、本事業に採択された経緯とダイバーシティ推進センターの取組についての報告をさせて頂きました。

さらに、国立研究開発法人科学技術振興機構 科学技術プログラム推進部主任調査員 今西 一憲氏からは「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの課題について～名古屋工業大学への期待～」という演題で講演を頂きました。名工大への強い期待が述べられ、会場からは熱心な質疑がありました。最後に内匠理事による閉会の挨拶では、講演者、来場者への謝辞と本事業の取組の決意を述べました。



新聞記事コーナー

中日新聞

掲載日	刊	面	氏 名	所属学科等	記事タイトル(内容)
2017/10/14	WEB		ソーラーカー部	—	ソーラーカー名古屋工業大12位 豪でレース大会
2017/10/15	朝	36	ソーラーカー部	—	名工大ソーラーカー12位
2017/10/20	松阪 紀勢版	18	須藤美音	建築・デザイン工学科	全校にエアコン導入を 松阪市長に検討委答申 19年度末までに整備へ
2017/10/21	朝	22	伴野 豊	卒業生(C58)	考える選ぶ 10.22 衆院選あいち 小選挙区の立候補者 8区 伴野豊 無所属
2017/10/24	朝	37	鵜飼裕之	学長	学術研究5件に助成金
2017/10/25	朝	32	加茂紀和子	建築・デザイン工学科	栄に模型サロン あなたも街設計を
2017/11/1	朝	14	光鮎会	—	豊田高専の模型も展示 鈴木禎次賞 岡崎信用金庫
2017/11/1	西三河版 朝	14	光鮎会	—	豊田高専の模型も展示 鈴木禎次賞 岡崎信用金庫
2017/11/3	朝	6	戸田暢茂	名誉教授	秋の叙勲受章者
2017/11/2	中日 プラス		伊藤孝紀	建築・デザイン工学科	栄で「パークレット」実験 車道にテラス、憩いの空間
2017/11/2	WEB		伊藤孝紀	建築・デザイン工学科	栄で「パークレット」実験 車道にテラス、憩いの空間
2017/11/2	夕	1	伊藤孝紀	建築・デザイン工学科	栄で「パークレット」実験 車道にテラス、憩いの空間
2017/11/6	朝	8	弓道部 ボート部	—	sports愛知 弓道 ボート
2017/11/8	朝	16	山本幸司	名誉教授	指定管理者候補決まる 大塚海浜緑地など
2017/11/8	朝	17	名古屋工業大学	—	「6年一貫」課程取り組みを紹介 名工大でシンポ
2017/11/16	可児版		名古屋工業大学	—	中山道東濃駅伝出場チーム
2017/11/16	東濃版		名古屋工業大学	—	中山道東濃駅伝出場チーム
2017/11/19	朝	20	ソーラーカー部	—	大学 マナビバ 技術血も上げ、世界12位 創部22年 名工大ソーラーカー部 優勝へ夢つなぐ
2017/11/19	WEB		ソーラーカー部	—	大学 マナビバ 技術血も上げ、世界12位 創部22年 名工大ソーラーカー部 優勝へ夢つなぐ
2017/11/24	朝	11	森河由紀弘	社会工学科	瓦の破砕物 路盤材に 県陶器瓦工業組合が実験
2017/11/24	中日 プラス		森河由紀弘	社会工学科	瓦の破砕物で路盤材 県陶器瓦工業組合が実験
2017/11/25	朝	21	Spycyz	—	名工大生、謎解きアプリゲーム開発 学祭用に
2017/11/25	WEB		Spycyz	—	名工大生、謎解きアプリゲーム開発 学祭用に
2017/11/27	WEB		名古屋工業大学	—	河村たかし名古屋市長に聞く!「名古屋＝魅力ある街」への秘策・奇策
2017/12/1	朝	7	鵜飼裕之 内匠逸 春日敏宏	学長 理事 生命・応用化学学科	未来を創る知恵と汗 第31回中日産業技術賞
2017/12/4	朝	12	園部海斗 小倉和夫	在学生	sports愛知 射撃 ◇
2017/12/5	朝	2	岩田 彰	名誉教授	高齢者の徘徊見守り 大府でシステム実験 中電と名工大
2017/12/6	岐阜版	16	名古屋工業大学	—	人材育て地元の力に 留学生の就職サポート 産官学連携組織 岐阜大で説明会
2017/12/7	朝	19	名古屋工業大学	—	社告 東海学生駅伝
2017/12/8	朝	29	名古屋工業大学	—	駅伝 東海学生駅伝 男女あす号砲
2017/12/9	朝	9	名古屋工業大学	—	20,21年卒の就活日程「来年3月までに」
2017/12/12	朝	6	吉村 元	卒業生(ES51)	新社長：三社電機製作所 吉村元氏
2017/12/12	静岡版		徳田研究室	—	《経済》 電子楽譜にボーカル機能搭載

中部経済新聞

掲載日	刊	面	氏 名	所属学科等	記事タイトル(内容)
2017/10/24	朝	3	中村修一	生命・応用化学専攻	「研究現場発」環境に優しい触媒開発で目指す創薬 有用化合物の効率的合成法
2017/11/21	朝	3	加藤慎也	電気・機械工学専攻	「研究現場発」次世代太陽電池の開発 ナノ構造が生み出す新しい物性

平成29年度 東京支部総会レポート

平成29年11月11日(土)、東京中野の中野サンプラザに於いて東京支部総会が開催され、148名の卒業生が参加した。大学から鶴飼裕之学長(F52)と生命・応用化学科の多賀圭次郎教授に、工業会から水嶋敏夫理事長(M42)と内藤克己常務理事(A43)にご来賓としてご列席いただいた。また、特別講演会の講師として、情報工学科の徳田恵一教授(Es59)にご参加いただいた。支部総会は、「総会」、「特別講演会」、「懇親会」の3部構成のプログラムで進められた。

第1部の「総会」では、最初に榎尾恒次東京支部長(C48)がご挨拶され、続いてご来賓の鶴飼学長と水嶋理事長よりご祝辞をいただいた。鶴飼学長からは、「科学技術で未来社会を創るといふ高い志を育む教育」を指針に掲げ、「工学のイノベーションハブ」としての機能を目指すとのことご説明とともに、名工大の現況とトピックスをご紹介いただいた。



鶴飼学長

水嶋理事長からは、ホームカミングデー、OG会である鶴桜会の結成、給付型奨学金、「ごきそ」の電子化等の工業会の最近の活動トピックスについてご紹介いただいた。最後に榎尾支部長から、東京支部の会務報告、会計報告および会計監査報告が行なわれた。



水嶋理事長

第2部の「特別講演会」は、「おしゃべりなコンピュータ ～音声合成技術の現在と未来～」と題して徳田恵一教授にご講演いただいた。徳田教授は、人間のようには喋る機械の実現に向け

てご研究されており、機械学習に基づく統計的音声合成について、音声創作ソフトウェアを用いたデモを交えて、素人にもわかり易くご説明いただいた。徳田教授は、名工大正門から構内に入ると最初に出迎えてくれる双方向音声案内デジタルサイネージ「メイちゃん」の生みの親である。ご講演ではメイちゃん誕生の裏話やテレビインタビューの様子をご披露いただき、改めて音声合成、音声認識、コンピュータグラフィックス(CG)、および音声インタラクション制御の連携を実現した技術レベルの高さを実感した。さらに三波春夫の声で歌うハルオロイド・ミナミやカラオケでの歌声合成の利用例、視覚障害者のためのスクリーンリーダーや声を失った方の声の復元などの医療・福祉分野での事例の紹介があり、盛りだくさんのご講演であったが、いずれも興味深いお話しばかりで、あっという間の一時間であった。



徳田教授

第3部の「懇親会」では、松浦明人副支部長(M47)がご挨拶をされ、ご来賓、旧友、同期、先輩、後輩との賑やかな歓談の場となった。現在の名工大の構内や学生の様子を紹介する動画が映写され、滝義宏氏(D39)によるハーモニカ演奏が披露された後、90歳台の大先輩お二人のご挨拶をいただいた。続いてメイちゃんによる校歌斉唱のお手本を聴いた後、ハーモニカの伴奏で参加者全員が校歌を斉唱した。さらに平成二桁卒の卒業生の音頭により万歳を三唱して若い人のエネルギーを分けていただいたところで、昨年に続き「全員での集合写真の撮影」を行なった。全員から笑顔をいただき、来年度の総会での再会を約束して今年度総会のお開きとなった。

記：刑部 道博(D54)



平成29年度 大阪支部総会報告

平成29年度大阪支部総会は、11月18日(土)メルパルク大阪において、参加者87名で盛大に行われました。

(講演会) 総会に先立ち、恒例の講演会が15時から開催されました。

今回は昭和60年に電子工学科をご卒業され、現在古野電気株式会社専務取締役船用機器事業部長としてご活躍中の小池宗之様をお願いいたしました。演題は「船用電子機器を核とした海洋総合企業を目指す古野電気」で、戦後日本のイノベーション100選に選ばれた魚群探知機の発明に始まり、その後の幅広い海洋関係事業の概要を説明されました。最近はそのノウハウをゲリラ豪雨観測レーダー等の防災事業にも進化させ、業容の拡大に務められておられ、この分野では世界トップの企業にふさわしく見応えのある動画もあり、1時間の講演が短く感じられる内容でした。

(総会) 講演会終了後短い休憩を挟み16時15分から総会を行いました。

審議に先立って岡崎大阪支部長から挨拶の

後、工業会内藤常務理事、母校の鶴飼学長からご祝辞を頂戴しました。人材育成、産学官連携、グローバル化など母校に関する最新のトピックスについて大変興味深いお話を頂きました。また学生の活躍する各部活動や鳥人間コンテストなど現役学生への支援についてのご報告も頂きました。

その後審議に移り、平成29年度事業報告と会計報告、同監査報告及び平成30年度事業計画と予算計画について審議し、承認を頂きました。

(懇親会) 17時30分から懇親会を開宴。高瀬兵庫支部長の挨拶の後、講演者の恩師でもある梅野名誉教授E35による乾杯のご発声で宴会が始まり、名古屋工業大学管弦楽団員より結成されました弦楽四重奏団の活気溢れるフレッシュな演奏とともに、終始和やかな中に大いに盛り上がりました。

最後は恒例となりました学歌を弦楽四重奏団の伴奏で斉唱、記念撮影の後閉会となりました。

今回は電影会・情友会が担当しました。皆様のご指導ご協力に対し、本紙面をお借りしましてお礼申し上げます。



見学会



講演会



懇親会



(見学会) 当日10時から吹田市にある「旧西尾家」と「旧中西家」への見学会を実施し、9名が参加され、第2代学校長武田五一氏設計の建築を意義深く見聞することができました。 記：東 功(E51)

平成29年度 尾張支部工場見学会報告

支部事業活動の1つとして今年も工場見学会を開催した。当日は早朝から肌寒い雨の中でも、85才以上の高齢者を含め予定通り全員参加となった。感謝いたします。

訪問場所：キリンビール名古屋工場

日時：11月18日(土) 10時30分～11時40分

参加人数：総数23名(含む3名家族)

昼食：11時50分～12時30分(同工場内のレストラン“ブルワーズハウス”

工場見学前の注意確認事項：工場見学コースには一番搾りビールの試飲が含まれているため飲酒運搬には厳重なチェックは当然なことと思います。

見学開始前にその他の注意事項の説明があり、ビール試飲後に記念写真の撮影では、参加者の表情が変わる懸念から試飲前の撮影となった。



10時30分定刻に工場見学開始、工場の約100年の歴史の説明と工場長の歓迎の挨拶をビデオで拝見、キリンビールの案内係りから”本日の見学会参加者の内どれだけの方がキリンビールの愛好者ですか”との質問があり、90%以上が愛好者と答えたため案内係りは非常に喜んでいました。消費者嗜好の変化に対応し、競合他社に対抗した新商品開発までには大変な苦勞と努力の結果が一番搾りビールだとの説明があった。

次いで“一番搾り”の製造工程順に説明を受ける。まず、大手ビールメーカーで唯一麦を製麦、ホップはチェコから調達し、徹底して素材にこだわる。麦芽の試食とホップの香を手にとって参加者で確認した。

順次、仕込み1：糖化一番搾りと二番絞りの比較試飲があり、仕込み2：麦汁ろ過、仕込み3：煮沸、発酵、貯蔵・ろ過、パッケージングと行程順に説明を受け、途中で製造装置のぞき窓から見学し、各工程での各種データの説明を受けた。同工場の生産キャパは年39万キロリットル、350ml缶で4600万個とのことだった。350ml缶詰めスピード1秒間に48缶、目で文字や数字等の詳細は確認できない速さとのことでした。当日は土曜日のためパッキング装置は稼働していなく確認できなかった。

最後に新一番搾りの堤真一出演最新TVCM編を大きなスクリーンで鑑賞した。

見学コースの10分間で3種の一搾り試飲、試飲中においしいビールの注ぎ方の実演があり、注がれたコップをもらい試飲プラス1缶分を飲みほした参加者もいた。

工場見学終了後同工場内のレストランで昼食をとった。昼食時に更にアルコールを個人別に注文する酒豪会員もいた。昼食後ほろ酔い気分です。同工場12時40分発シャトルバスJR枇杷島駅行きに乗り込み見学会を散会した。

引き続き希望者7名で甲冑工場と清須城を見学し築城歴史を学んだ。

見学時間：12時50分～14時。

記：音無通男(W41)

平成29年度 名古屋支部見学研修会に参加して

去る平成29年10月21日(土)、名古屋支部恒例の見学研修会に参加しました。旅程は、NHK-TVの大河ドラマで注目されている浜松市の「おんな城主直虎大河ドラマ館」を見学後、舘山寺温泉「サゴロイヤルホテル」にて昼食をとり、その後、「本田宗一郎ものづくり伝承館(諏訪神社)」、「浜北スイーツ・コミュニティ」を訪れるというものでした。

見学研修会は、超大型で猛烈な台風21号が翌22日に東海地方へ上陸するかもしれないという予報もでていた生憎の天候でしたが、幸いにも出発時は殆ど雨が降っておらず、支部会員はじめご家族の皆様、総勢72名の参加者が、栄・テレビ塔北の観光バス乗り場に集合、2台の名鉄観光バスに分乗し、元気に出発しました(写真1)。



写真1. 参加者の皆さん
(サゴロイヤルホテル前、上:1号車、下:2号車)

初めに訪問した「おんな城主直虎大河ドラマ館」は、今年のNHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」の放映にあわせ、主人公“井伊直虎”ゆかりの地である浜松に今年初めオープンした施設です(著作権保護のためか撮影可能場所が限られており、展示物の撮影はできず)。大河ドラマの舞台となる井伊谷や井伊家の館内・井伊家の家紋にもなった伝説の井戸をイメージしたセットをはじめ、出演者の衣装や小道具などが展示されており、戦国乱世時代に思いを馳せることができる展示となっていました。



写真2. 昼食会場全景

昼食は、浜名湖湖畔に建つ10階建てのサゴロイヤルホテル2階の大広間(写真2)です。五点盛りのお造りを初め、浜名湖名物のウナギを柳川風に卵とじて仕立てた鍋もあり、大食漢の私でもお腹一杯、充分満足できました。食事の後には、10階にある展望風呂や最上階の露天風呂を楽しんだ方も大勢いらっしゃいました(もちろん私も)。

昼食後、「本田宗一郎ものづくり伝承館」と「浜北スイーツ・コミュニティ」の2カ所を、2台のバスで訪問順番を入れ替えて、訪れました。「本田宗一郎ものづくり伝承館」は、本田技研創設者の本田宗一郎の幼少期からの半生を展示したもので、こじんまりとした展示館にもかかわらず、本田技研工業設立までの苦労や世界で1億台以上販売されたスーパーカブの変遷、二輪車から四輪車への挑戦など、判りやすく展示されており、改めて本田宗一郎氏のものづくりに対する思いが伝わる展示館でした(写真3-1、3-2)。歩いて5分ほどにある諏訪神社へ参拝された方もいたようです。

「浜北スイーツ・コミュニティ」は、全国土産



写真3-1. 本田宗一郎ものづくり伝承館内 (1F)



写真3-2. 本田宗一郎ものづくり伝承館内（2F）

物売り上げ第一位の「うなぎパイ」（バスガイドさんの受け売り）の春華堂がプロデュースし、浜松地域のお菓子屋さん3社が集まって出来た、お菓子の販売のみならず、桜の木やハーブなどの植物に囲まれた庭でゆったりと過ごすこともできる空間です。残念ながら雨のため、屋外でゆったりすることはできませんでしたが、皆さんご家族やご近所などへのお土産を沢山購入し、帰路についたのです。

帰りのバスは、台風の接近もあり、かなり強い雨でしたが、新作ビデオを観ながら約1時間半、ほぼ予定通り、無事に栄へ戻ってきました。台風接近をものともせず参加された皆さんと綿密な計画を立てられた幹事の皆さんとの協力・連携の賜…名古屋名古屋支部の力強い団結の一端を垣間見た気がしました。

支部長からは“見学研修会は来年も継続します”との力強いご挨拶も戴きました。今回の見学研修会は雨にたたられてしまいましたが、次回は雨でも充分楽しめる、晴れたら尚楽しめる…そんな企画になると参加者も企画者も安心できるかも知れませんね。次回も楽しみにしています。

記：西村 良博(F48)



大阪支部秋季見学会 大阪市立阿倍野防災センター見学会報告

大阪支部秋の見学会は、10月21日(土)の午前中に大阪市立阿倍野防災センターを見学しました。参加者は10名でした。

今回は、今後予想される南海トラフ地震などの災害時にどのような対応を取ったら良いのかをあらかじめ「体験」する場所の見学でした。

地震災害体験ゾーンのコースは4種類あるのですが今回は、大人向けの100分コースを選びました。100分で、バーチャル地震コーナー⇒火災発生防止番通報コーナー⇒消火コーナー⇒救出コーナー⇒応急救護コーナー⇒震度7地震体験コーナーを巡りアシスタントさんの指示でいろいろな動作を行うものです。

例えば、正しく消防署へ通報ができますか。また、正しく消火器を使用できますか。家に消火器をお持ちでも、一度現物で動作を行って下さい。緊急時になると慌ててしまい正しく扱えないことが多いそうです。

最後の震度7地震体験は、結構迫力がありました。この施設は、休館日は水曜日で、料金は無料ですので一度ご家族で体験されることをお勧めします。

問い合わせ先は、06-6643-1031です。

今回の見学会は、場所をあべのキューズモールに移して懇親会を行い、皆様の情報交換を行いました。

記：西川 嘉一(G50)



平成29年度 九州支部例会の開催報告

平成29年度の九州支部例会は、秋たけなわの10月21日(土)に、福岡市八仙閣にて開催しました。

今年は、名古屋工業会本部から、理事長 水嶋敏夫様(機械S42)、名古屋工業大学から学長 鵜飼裕之様(計測S52)のお二方をお迎えし、19名の同窓生が出席されました。以下、式次第に従って概要を報告します。

まず、出席者全員による記念撮影、福岡地区担当の永濱幹事による開会のことば、喜多村支部長の挨拶に続いて、水嶋理事長のご挨拶、鵜飼学長のご挨拶をいただき、工業会の近況、大学の変遷と現状並びに今後の方向についての詳しいお話をお伺いすることができました。特に、昭和40年に卒業した本報告者にとって、卒業後の大学の進展は大きな驚きであると共に、明るい将来に大いなる期待を抱きました。大学の益々のご発展を祈念します。

その後、支部長による平成28年度活動報告と会計報告及び平成29年度活動計画を語り、出席者の拍手をもって承認されましたが、一方、出席者数拡大の話も出て有志による検討がなされることになりました。また、支部にゴルフ同好会が発足して2年目になりますが、春、秋の年2回、開催されており、今後とも、活発な活動が期待されます。

以上の総会に引き続き、長崎市よりご出席の井手様(生産機械S49)のご発声による乾杯のもと懇親会に入りましたが、出席者全員による自己紹介と近況報告の場では、それぞれのご活躍の様子が紹介され、一同は熱心に傾聴しました。また、この懇親会では、出席者と水嶋理事長様、鵜飼学長様との交流を図っていただくことができましたが、参加者の中に、ご子息が名工大に進学或いは卒業したとのご紹介があり、この時は、特に、座が大いに賑わいました。

今年の例会も大いに盛り上がりましたが、会の終わりには学歌「東海の邦のほまれに」を全員で合唱

し、来年4月から九州支部長を務める池崎 徹様(生産機械S54)の音頭のもと万歳三唱により名古屋工業大学並びに名古屋工業会の益々の発展と同窓の皆様への健勝を祈念しつつ、来年の北九州市での再会を約して、また、九州各県からの多くの参加を期待して散会しました。

記：九州支部長 喜多村治雄(M40)

旧土木応援歌“マキビ”& C24クラス会報告

戦火による廃墟から這い出した若い情熱は、対科マッチで燃え上がった。土木・機械・建築・紡織・電気・化学工業・窯業の7科が陸上競技や球技で競いあう、唯一の校内行事である。

娯楽と言えばラジオと映画ぐらいの時代、戦時鬱積した心身を爆発させる絶好の機会、C, A, M, W, E, D, Yを白抜きした各科カラーの大旗を打ち振って応援も熱狂した。

我等の土木には、奇妙な応援歌?があった。クライマックスで団長が「マキビー」と叫ぶや一斉に、「マキビのクラスネかじってカットバセットバセー、土木の選手は意気で勝つ、カットバセットバセットバセー、カットバセットバセー」と、声を枯らして唱和する。

私は予てからこの「マキビのクラスネ」たるや何者かが不明で、この70年間迷っている。私見では、奈良時代の学者で入唐もした吉備真備(キビノマキ)の健脚?の脛にあやかりたいというのが所以かなと思うが、若し曰くをご存じの方があれば、是非お教え願いたい。

閑話休題、C24のクラス会は毎年10月10日の晴天特異日に開催している。九十路に差し掛かっているが意気軒昂。卒業時の35名が現在音信可能者は12名、今年の卒68年次会は、山中傳四郎(夫妻)・杉山方克・中江水哉・榎本 昭・安藤 實が、かんざんじ温泉さざなみ館に宿泊し、翌日「おんな城主 直虎」の史跡巡りを行い旧交を温めあった。

記：安藤 實(C24)



直虎ツアーバスを背景に、
左から安藤・杉山・榎本・中江・山中・同夫人

D41同窓会 旅行記

毎年行われている工業化学科41年卒の同窓会、今年は10月29日、30日に関東地方在住の皆様のお手配により、熱海・小田原にて行われました。当日は、台風22号接近中で皆集合できるか？心配でしたが13時に熱海駅へ無事集合、まずは、MOA美術館へ直行、長い！長い！エスカレーターを乗り継ぎ、「黄金の茶室」でまず驚かされ、その後、茶道具や美術品鑑賞、国宝仁清色絵藤花文茶壺なども鑑賞し、その色彩の鮮やかさに見とれてしまいました。この美術館は国宝3件、重要文化財66件、重要美術品46件を含む約3500件を所蔵しているそうです。美術館を後にして、KKRホテル熱海へ、温泉に入ってリラックス。その後、楽しい宴会の始まり、途中で堀尾氏と木俣氏のプレゼンがありその後全員の近況報告(時間が足りなくて2次会の席まで持ち越し…)

夜の更けるのも忘れ「飲んで！喋って！笑って！」まるで学生時代そのままでした。

翌日は台風一過の快晴。小田原へ移動「鈴廣かまぼこ」の本社2015年9月に完成した「ゼロエネルギービル」を見学後、鈴廣副社長で小田原商工会議所会頭の鈴木悌介氏より「再生可能エ

ネルギーによるエネルギー転換と地域経済」についての講演、小田原における「脱原発・エネルギーの地産地消・省エネルギーなどの取り組み行動」を聴かせて頂き一同大変感銘しました。その後、歴史を感じさせる合掌造りの料亭「千世倭楼」で豪華な昼食と地ビールを楽しんだ後「小田原城」へ…NHK戦国大河ドラマでおなじみ(北条早雲、小田原合戦、大久保氏など)ですが、小田原城を見るのは皆初めての様子…2016年に天守閣の耐震補強工事が行われ、展示品の大規模リニューアルが行われたため、大変綺麗なお城になっていました。現地のガイドさんの説明を受け天守閣まで登り眺望を楽しみました。

今回の同窓会は、美術鑑賞あり・工場見学あり・講演会あり・お城見学ありと大変中身が充実して思い出深い、忘れることの出来ない素晴らしい会でした。幹事の皆様ご苦労さん!! 有り難う御座いました。「かまぼこ」をお土産に買い、来年「東海地方」で会うのを約束して小田原駅で散会しました。

記：伊藤 豪(D41)



年を感じさせぬ元気な20名の皆様



鈴廣本社にて

第25回ごきそ会展(名古屋工業大学OB美術展)2017開催

名古屋工業大学卒業の美術を愛好する仲間が集まり、毎年名古屋で美術展を開催しております、今年は25年の節目の年を迎え特別参加者4名を加え23名の作品84点を10月31日(火)から11月5日(日)まで名古屋の伏見にある電気文化会館5階東ギャラリーで展示いたしました。今年も多数の方にご鑑賞をいただき好評のうち無事終了することが出来ました、お忙しい中ご来場いただいた皆様に心からお礼を申し上げます。

新しく昭和50年(建築)卒の小田義彦さんが加わりました。最高齢の清水昭夫さんのアクリルスプレー画や若手の野田さんの立体物が会場の雰囲気を盛り上げ、全体的に質も高いとの評価をいただきました。

今年も新しい方に加わっていただきましたが会員の高齢化が進んでいます、若い世代の方のご入会を期待しておりますので、是非絵を描いている方の情報ありましたら下記事務局までご一報くださいますようお願い申し上げます。

来年も同じ場所で同時期に開催予定です。なお来年度から幹事が交代します、幹事に平川史朗さん、副幹事に高橋秀郎さんです、代わらぬご厚情をよろしくお願い申し上げます。

記：福田 一豊(A36)

今回の出展者名

清水 昭夫(A26)	日比野正憲(E28)
富田憲次郎(A29)	神谷 義夫(A31)
栢本 良三(A31)	森 鉦一(A31)
早川 茂次(A33)	本田 暎幸(D33)
清水 昭(A34)	山田 銃一(K34)
伊藤 禎治(A35)	栃尾 宗昭(A35)
脇田 芳明(A35)	福田 一豊(A36)
藤野 康彦(A36)	平川 史朗(A38)
高橋 秀郎(M41)	村上 健一(M41)
吉田 昭博(M41)	小田 義彦(A50)
田中佐知男(Y61)	野田 敏生(M⑨)
高山 晃直(M⑩)	

事務局 福田 一豊

幹 事 平川 史朗

〒454-0971 名古屋市中川区富田町千音寺土坪3755

TEL/FAX:052-432-3975

E:mail hirakawa46@cap.ocn.ne.jp

副幹事 高橋 秀郎

〒470-0155 愛知郡東郷町白鳥3-18-8

TEL/FAX:0561-38-1431

E:mail tymxf330@ybb.ne.jp



集合写真



会場風景

名工会東京支部 第233回ゴルフ大会報告

名工会東京支部第233回ゴルフ大会は、11月2日に神奈川県厚木市の大厚木カントリークラブ桜コースにて開催いたしました。

2週連続で襲来した台風一過の後、秋晴れの好天に恵まれた絶好のコンディションの中、5組17名の参加にてスタートし、全員が無事ホールアウトされました。

結果は、優勝：D38 宮口 守弘さん(NET69)

準優勝：E33 藤田 正浩さん(NET73) 3位：M39 津田 卓美さん(NET81)でした。

プレー終了後の懇親会では、上記入賞者のほか、順位賞、特別賞の方々に大先輩の小関先生(M18)より、カップ・賞品が授与され、皆さんの受賞挨拶やゴルフ談義などにぎやかな盛り上がりの内に懇親会を終了しました。

なお次回234大会は、桜の満開時を狙って来年3月末に本厚木CCで開催予定となっています。多くの方々の参加をお待ちしております。

また当会の活動内容問い合わせ及び入会希望の方がおられましたら、C44川島 泰(k_tai@amethyst.broba.cc)までご連絡ください。

記：実行委員 竹林義之(D39)、林 利信(B45)



(後列左から)

C31黒田、D36加藤精也、E30加藤規、M18小関、E39吉田、A35 伊藤、D39竹林、E33藤田、D38宮口、M36 野澤

(前列左から)

B45林、E31安藤、M39津田、C42 原
D35済木、C44川島、E48寒川

大阪支部ゴルフ報告

―古き「名古屋工大会」を長老が語る―

第287回名古屋工大会は平成29年11月22日、高槻カントリー倶楽部において、参加者22名で開催されました。週間予報では寒い雨天が予想され、前回に続く雨の中でのゴルフを危惧しましたが、当日は朝のうちは霜が降りたものの、雨も風もない最高気温14℃と比較的穏やかなゴルフ日和に恵まれました。優勝はベストグロス84のK48岡本二郎さん。2位はM51坪田博隆さん、3位W35松下正三さんでした。

プレー後の懇親会では会の長老M22青木昭二様(89歳)が昭和33年(59年前)から始まった名古屋工大会について語られました。当初は年6回の開催で、春は桜満開の西宮、夏は涼しい六甲、年末は鳴尾で、締めはすき焼きパーティーが定番であったこと、また、個人的に多額の寄付をされた先輩や広野、鳴尾、茨木など名門コースのメンバーが多数おられたこと、先輩を敬う本会の基本会則などなど。誇るべき我が名古屋工大会のよき伝統をあらためて一同認識した有意義な懇親会となりました。

第300回を目前に控え、良き伝統を引き継ぎながら、これからも同窓の親睦を図る和やかな「敷居の低いゴルフ会」を運営していきたいと思っています。

2018年開催計画 288回：4月6日(金)、
289回：6月6日(水)、290回：10月5日(金)、
291回：11月21日(水)

記：小川二郎(E49)



第287回大会参加者



大先輩青木さんよりトロフィーを受ける優勝者



謹賀新年

平成30年元旦

名古屋支部

〔平成29・30年度主担当単科会:計測会〕

支部長	大鹿秀正	F47
幹事長	大鑄史男	F49
庶務幹事	米谷昭彦	F60
同	木村高志	F62
会計幹事	内藤隆	F①

〔単科会 代表連絡幹事〕

C E 会	遠藤浩二	C61
光鱈会	伊佐治武	A39
巴会	大西一	M49
電影会	三宅正人	E60
双友会	泉地正章	W44
緑会	犬塚正憲	D48
名窯会	曾根茂実	Y62
名晶会	平野春好	K50
計測会	米谷昭彦	F60
経友会	仁科健	B50
情友会	石橋豊	J56

事務局 〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4
名古屋工業会内 ☎(052)731-0780

東京支部

支部長／副理事長	C48	檀尾恒次
副支部長／代議員	M47	松浦明人
副支部長／代議員	D45	鈴木満雄
代表常任幹事／代議員	K50	細谷佳弘
相談役／顧問	D33	横田章宏
相談役／顧問	E36	小田征一郎
相談役／参与	D41	阿部完二
相談役／参与	Es42	平手孝俊
顧問	W38	倉島和治
顧問	D51	松居三山
監事	D38	三山日沖
監事	Y40	

常任幹事/代議員

Es43	森本晃一
C55	松田和繁
A62	長谷川久巳
F52	小川一郎

常任幹事

C53	瀬尾卓也
C56	名倉健二
D54	刑部道博
D57	大久保智明
M45	小野尚純
M55	戸澤宏一
E44	井上憲二
E⑬	三浦太朗
A58	吉井正行
K53	北村明弘
Y42	清建太郎
W43	印藤嶺
B46	飯沼義昭

幹事

C44	川島泰美
C⑭	佐藤良亮
D35	岡本利郎
D44	馬場順一
D①	木下清彦
E36	福間洋二
M49	一瀬賢陽
A55	池松新一
K61	近藤政之
F45	
B43	

北海道支部（北鱈会）

支部長 三田村好矩（F41）

代議員 浅井信和（D45）

三河支部

支部長 中島和彦（Y58）

幹事 北朋弘（FB6）

東北支部

支部長 齋藤文伸（A51）

事務局 〒982-0821 仙台市太白区松が丘3-22
☎&FAX 022-228-0685

尾張支部

支部長 音無通男（W41）

平成30年度支部総会は名古屋文理大学
文化フォーラムで4月7日(土)に開催します。

大 阪 支 部

支部長 * A46 岡崎 格郎
副支部長 * E47 川越 英二
副支部長 G50 西川 嘉一

総務委員長 C59 堀口 大輔
事業委員長 * E47 川越 英二 同副委員長 G50 西川 嘉一
会員増強委員長 G50 西川 嘉一 同副委員長 B50 出口 貴通
若手・女性部委員長 C55 小西 日出幸 同副委員長 M48 筒井 真作
地方部委員長 E45 伊藤 俊明 同副委員長 B50 出口 貴通
技術士部会 M46 松永 純二 同副委員長 D41 末利 鏡意
財務委員長 A50 井上 修一 同副委員長 F55 坂尾 健司
単科会連合委員会委員長 * B50 西岡 裕 同副委員長 M58 筒井 真作
監 事 W48 奥村 茂樹

単科会支部長 C47 西川 芳久 単科会支部長 Y44 川島 謙
単科会支部長 A56 穂山 和生 単科会支部長 K48 加藤 修
単科会支部長 M45 掛田 健二 単科会支部長 F55 坂尾 健司
単科会支部長 * E47 川越 英二 単科会支部長 B50 廣島 清則
単科会支部長 W40 缶 文雄 (以下役員16名は空白)
単科会支部長 G50 西川 嘉一 * は本部代議員

地方部会幹事

和歌山県 C57 東 照久 C53 向井直樹 SC⑦ 井原誉文
奈良県 K47 横山 誠 G50 西川嘉一 C52 福井広行
滋賀県 A46 福永忠昭 M45 伊藤俊明
京都府 D45 西村源四郎 D45 駒田周美 M58 筒井真作

【本 部】

本部相談役 C44 木越 正司
代議員 * G52 田中 耕嗣
代議員 * D51 佐野 義和

兵 庫 支 部

支部長 高 瀬 陽太郎 C55 兵庫県庁
副支部長 西 川 芳 久 C47 神鋼環境メテックス
植 田 康 之 M⑩ 川崎重工業
事務局長 青 野 信 尹 C46 元・神戸製鋼所
監 査 役 上 村 芳 大 M55 川崎重工業
顧 問 秋 山 敏 郎 C33 元・兵庫県庁
楠 田 修 三 A50 兵庫県庁
幹 事 田 村 健太郎 C②① 兵庫県庁
羽 倉 昭 二 C54 神戸市役所
一 宮 誠 M61 神戸製鋼所
小 倉 正 裕 ZY③ 神鋼環境メテックス
武 藤 崇 史 EJ② (三菱電機 一般・東)
弘 津 健 二 J63 三菱重工業
加 藤 恵 之 K44 (白鷺特殊鋼 一般・西)

【本 部】

代議員 H29年度 高瀬陽太郎 C55 兵庫県庁
同上 西川 芳久 C47 神鋼環境メテックス
参 与 同上 楠田 修三 A50 兵庫県庁

山 陰 支 部

支部長 糸 賀 輝 穂 (C51)

岐 阜 支 部

支部長 元 島 栖 二 (D40)

事務局 関 尾 光 正 (D41)

香 川 支 部

支部長 藤 川 智 (E52)

岡 山 支 部

支部長 野村幸宣 (C54) 幹 事 岡本研作 (Y54)
代議員 小倉俊彦 (A58) 浜野弘史 (Es56)
代議員 虫明正博 (K59)
幹 事 中村浩巳 (A54) 事務局
石井敏典 (G47) 〒701-0113 倉敷市栗坂467-22
齋藤 実 (C55) 虫明産業(株)内

広 島 支 部

支部長 菱 川 躬 行

事務局 〒735-0015 広島県安芸郡府中町青崎東8番49号
株式会社システム総合研究所
☎ 082-284-5630

九 州 支 部

支部例会には皆様のご出席をお待ちしております。
平成30年は10月に北九州市で行います。

支 部 長 喜多村治雄（機械 S40）TEL 0940-33-6114
副支部長 安達 高春（建築 S46）
事 務 局 永濱 伸介（経営 S63）
事 務 局 中松 智昭（情報 修 H22）



ホームページの作成・Webサイトの構築

情報処理研修・各種セミナー 開講

株式会社 サクラソフトハウス

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4 名古屋工業会館4階
TEL 052-735-3171 FAX 052-735-3172



株式会社 **TYK**

代表取締役会長 牛 込 進（Y33）



名古屋工業大学生生活協同組合

専務理事 白 取 義 之

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
TEL〈052〉731-1600 FAX〈052〉731-8726
E-mail : shiratori@nitcoop.or.jp

総合印刷の 有限 栄光社 会社

〒466-0035 名古屋市昭和区松風町三丁目4番地
ムツミヤビル2F
TEL〈052〉848-6148(代) FAX〈052〉848-6518番



平成30年度 一般社団法人名古屋工業会 会員総会開催予告

日 時：平成30年5月19日（土）14：00～

場 所：名古屋工業大学内

会員総会：14：00～15：00

特別講演：15：30～16：45

懇 親 会：17：00～19：00

※なお、代議員による定期総会は12：30から開催します。

詳細は次号でお知らせします。

『投稿のお願い』

名古屋工業会 広報委員会

【原稿のジャンル】

- ◆ 交流コーナー（4頁以内）：ご自身のお仕事上の経験などを紹介
- ◆ 学生コーナー（2頁以内）：名工大生の様々な活動を紹介
- ◆ 研究紹介（4頁以内）：オリジナリティと学術的有用性のある研究論文
- ◆ 講座（4頁以内）：最新技術情報など一般読者に役立つ内容
- ◆ 随筆（3頁以内）：見聞・体験・感想・在学時代の思い出など
- ◆ 紀行（3頁以内）：海外出張・留学・旅行など
- ◆ 情報ネットワーク（1頁以内）：支部報告・会員ニュース・お知らせなど
- ◆ 他に俳句・詩などの文芸、会員の著書・展覧会などの寸評、その他のご自由な意見など（1頁以内）
これら以外に広報委員会が設定する特集・連載記事を募集または依頼します。

【投稿規定】

- (1) 原稿の種類 掲載希望ジャンルを上記から選択してください。
- (2) 原稿の長さ 1頁あたり「文章1,000文字+写真・図・表2点」が目安です。規定の頁数に収まるように作成ください。
- (3) 原稿の作成と入稿
 - ・原則として当用漢字と現代かなづかいの口語体を基調とします。
 - ・刷り上りはA4版2段組です。標準の文字数は1段が「21文字×38行=798文字」で、1頁につき「21文字×38行×2段=1,596文字」です。
 - ・手書き原稿でも結構ですが、なるべくワープロソフトを使用し、図表を含め仕上がり紙面に近い書式で原稿を作成ください。
 - ・写真および図版はお送りいただいたものをそのまま使用します。その場合、提出は(JPEG)を歓迎します。写真や図版ごとにキャプション(短い説明)と通し番号を明記してください。
また、会誌「ごきそ」へはモノクロで、ホームページへはカラーで掲載致しますので、ご入稿の際はカラー版をお送りいただけましたらと思います。
また、校正は色校正でもお出しできますので、ご希望の際はご連絡ください。
 - ・電子メールでの入稿(Word、Excel、PDF、text等のファイル形式)を歓迎します。
但し、PDF原稿の中に写真や図等の貼付けがある場合、その部分の解像度が落ちてしまう可能性がありますので、できましたらJPEGファイルも別添いただきますようお願いいたします。
- (4) 原稿の採否および掲載時期
 - ・原稿は、原則として未発表のものに限ります。原稿の採否および掲載時期は『ごきそ』編集委員会にて決定します。原稿の短縮や、表現・内容の修正等をお願いすることがあります。
- (5) 著者校正 通常の場合、初校の著者校正をお願いします。
- (6) 原稿表紙 電子メールの本文、あるいは原稿表紙には次の情報を記載ください。
 - ・著者名と所属
 - ・本学出身者の場合は卒業した学科(あるいは専攻)、卒業年度
 - ・原稿の種類(掲載希望ジャンル)
 - ・原稿の題目
 - ・顔写真の有無(有りの場合はプリントまたは電子ファイル(JPEG)を添付)
 - ・ご連絡先(郵便番号と住所、電話・FAX・電子メールなど)

【原稿送付先】

原稿送付および投稿に関するお問い合わせは下記宛にお願いします。

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4 一般社団法人名古屋工業会内 広報委員会

Tel: 052-731-0780 Fax: 052-732-5298 E-mail: gokiso@lime.ocn.ne.jp

(株)ブライダルは 名古屋工業大学会員の皆様の 「結婚」を応援します。

40年の実績
(一橋大コースetc)



左のQRコードにて携帯サイトに
簡単にアクセスできます。
(一部対応しない機種がございます。)

名古屋工業大コース

これをご覧になったとおっしゃってください

登録料 **50 % OFF**

ブライダルコース ¥226,800→¥210,600 etc.

エクセレントコース ¥388,800→¥372,600 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

- 成婚率は業界トップクラス。
- 入会審査有り。
- 都庁・官公庁・有名大学などでメディア展開。
- お客様満足度NO.1のお世話を目指し少子化問題にも貢献。

株式会社 **ブライダル** お問い合わせ 0120-415-412
http://www.bridal-vip.co.jp
名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F
Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

60名のデンソー等企業出身者が御社の課題を解決します!

技術支援

メカから電気・電子、半導体まで
開発設計、品質、生産技術、生産まで

研修・講演

技術系全25講座 ー材料、加工、設計、電気・電子、
組込コンピュータ、各種要素技術…
品質系全30講座 ーDRBFM、なぜなぜ分析など
各種未然防止手法
マネジメント系全10講座 ー経営品質、もしどらーダシブ、
プロジェクト管理…

WORLDTECH

株式会社ワールドテック

代表取締役 寺倉修(F50)

〒458-0901 名古屋市中区錦2-15-22りそな名古屋ビル7F

TEL: 052-219-6025

FAX: 052-219-6026

E-mail: solution@worldtech.co.jp

企画から製本まで承ります。

企画・デザインから製本まで
トータルサポートでお値打ち!!

デザイン

名刺・ハガキ・封筒・チラシ・カタログ・
パンフレット・ポスター・定期刊行物
etc.
タイプ・電子組版時代から築き上げら
れたノウハウはDTPにおいて、特に
不得意とされる縦組みの書籍・表組み
の頁物も得意分野です。

印刷

カラー印刷・2色刷り・1色刷り・特色
刷り、品質・部数・ご予算に応じて提供
いたします。
Macintoshのみならず、ワード・大
部等の通常のオフセット印刷に過ぎな
いWindowsデータの出力ノウハウも
ありますのでご相談ください。

製本

自分史・体験記・詩歌・俳句・小説・エ
ッセイ・童話・絵本等、自分の本を作りた
いとお考えの方。
各種マニュアル・広報・配布文書・名鑑・
クラブ・サークル誌・宣伝物等、製本で
お困りの学生・法人の方、少ロットより
お手伝いします。

総合印刷の



有限会社 **栄光社**

〒466-0035 名古屋市昭和区松風町三丁目4番地 2F
TEL. (052) 848-6148
FAX. (052) 848-6518
URL http://www2.ocn.ne.jp/~eik/
E-mail eikou@theis.ocn.ne.jp



広報委員会

委員長 森川 民雄 (W45)

学内

学外

鈴木 弘司	堀尾 朋宏 (SU②)
北川 啓介 (SA⑧)	浅野 健 (SU⑥)
古谷 正広 (MF③)	
関 健太 (EP⑫)	廣瀬 光利 (E50)
山本 勝宏 (ZW⑥)	吉木 満 (W56)
北川 慎也 (D⑤)	高取 奨 (D⑥)
本多 沢雄 (ZY⑥)	山田 哲正 (Y47)
小坂井孝生 (K49)	大矢 泰正 (K52)
米谷 昭彦 (F60)	守田 賢一 (F47)
川村 大伸 (SS⑩)	入倉 則夫 (B47)
渡 尊司 (名古屋工業大学 広報室長)	

一般社団法人名古屋工業会会誌 「ごきそ」に広告を掲載しませんか

「ごきそ」は隔月発行し、会員・廣告
主・関係官庁・各学会・大学・図書館等
に頒布されています。

詳細は名古屋工業会のホームページ

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

でご確認ください。

※広告を募集中です。お問い合わせは名古屋工業会 E-mail: gokiso@lime.ocn.ne.jp までお願いします。